



延長約 15 k m 幅約 10 k m 面積約 100 k m²

西日本屈指の規模 愛知川扇状地



比高差 10m の段丘崖を往く

愛知川扇状地には、流路兩岸にみごとな河岸段丘地形が形成されています。
その階段状地形に起因する歴史遺産をみるまち歩き！

① 鯰江の城

元亀元年、信長は京から岐阜へ、決死の千草越えを決行します。この時浅井長政が兵を入れたのが、鯰江の城です。また3年後、近江守護佐々木六角氏の対信長最終戦となったのも鯰江の城です。
今も遺る土塁や段丘崖から見る信長逃避行のルートから、戦国の緊張感が伝わってきます。

② 中戸城

あまり紹介されることの無い城跡です。集落内や藪の中に、土塁と考えられる遺構が遺っています。
①の鯰江の城と一体となって機能していた可能性もあります。鯰江氏の本城はこの中戸城で、鯰江の城は鯰江氏の重臣森備前守の城であったと考えてもいいのではないのでしょうか。

③ 井元城

昭和末期に発見された城跡です。地元には全く伝承がないことから、六角・鯰江対織田の対戦時、織田側が造った付城ではないかとされています。
二重角馬出しを持つ構造は近江にはなく、関東系の技術のことです。このことも、織田側の城の根拠となっています。果たしてどうなのでしょう。

④ 松雲寺

井伊家4代当主井伊直興公と深い関係のある寺院です。境内には、直興公の遺髪塔が建立されています。
享和2年(1802)発生した愛知川の大洪水では、曾根町の人々の避難所となりました。さしもの洪水も、段丘崖を越えることなかったのです。村人も家畜も命を落とすことはありませんでした。

⑧ 愛知井由来の記石碑

段丘崖を駆け上がる用水路があります。愛知井と言います。自然地形の傾斜を知り尽くしたうえでの水路建設です。その工事は、8世紀の条里制以前に遡るとされています。
低位段丘面上の耕地の水利として、長い歴史を持ちます。その受水地の集落の人々が、建立した記念碑です。

⑦ 姉が池地蔵尊

その昔、鯰江荘に善右衛門という長者がいました。彼には可愛い娘がいたのですが、ある日眼病を患いました。地元の寺で平癒祈願を続けていた所、参籠の延長と地蔵尊建立のお告げがありました。そして、その地蔵尊を祀った下にある池の水で目を洗い、飲用すれば直ると。その通りにすると、眼病は治りました。

⑥ 春日神社

鯰江荘は、奈良興福寺の荘園でした。興福寺領では、その地の安全と五穀豊穡を祈るため、春日神社を勧請することが常です。
この春日神社は、曾根・妹・中戸・鯰江4町の氏神様です。また祭礼組織は、大神社・弁水・星生・神部・田楽・新幣5つの講によって構成されています。

⑤ 光明寺

山門は、鯰江の城の遺構だと伝わっています。馬に乗ったまま出入りするため、通常より丈が高く、馬上門と呼ばれることも。現住職の名字は佐々木さん、寺紋が四ツ目であることも、佐々木六角氏との関連を感じます。
ちなみに、境内の宝篋印塔には、正安二年(1300)の紀年銘があります。

